令和7年度　第3回浜松市幼児教育推進協議会　議事要旨

1　開催日時・開催場所	令和8年2月5日（木）午後2時30分から午後4時30分　ザザシティ浜松中央館5階大会議室					
2　委員・有識者		氏　名（敬称略）	所属等		氏　名（敬称略）	所属等
	1	島田　桂吾	学識経験者　静岡大学大学院教育学研究科准教授	8	清水　幸枝	市立保育所・認定こども園　佐鳴台こども園園長
	2	伊藤　いかよ	私立認定こども園　和光こども園園長	9	坂本　友彦	市立小学校　三ヶ日西小学校校長
	3	山﨑　亜佐美	私立幼稚園　浜松学院大学付属幼稚園園長	10	山崎　拓也	幼稚園・保育所・認定こども園保護者代表
	4	竹内　映晴	私立保育所　まつのき保育園園長	11	中嶋　康人	幼稚園・保育所・認定こども園保護者代表
	5	島田　さち子	地域型保育事業所　あいあい保育ルーム園長	12	野田　志保	こども家庭部長（委員長）
	6	稲垣　さとみ	認証保育所　はままつ保育園　保育士	13	吉積　慶太	学校教育部長（副委員長）
	7	名倉　由美	市立幼稚園　宮口幼稚園園長	14	青島　治道	教育センター所長

3　主な意見・質問等

1　「第4次浜松市教育総合計画前期計画」及び「浜松市こども計画」に係る令和7年度実施状況の調査結果について

・調査項目の設問内容について、今回の設問が抽象的になっている印象を受けるので、もっと具体的に示す方がよいのではないか。例えば、遊具で遊んでいて事故が起きると、遊具を撤去する方に意識が向きがちだが、それが本当にこどもに対して安全な環境提供なのか疑問に思ってしまう。こどもの危機管理能力を奪っているのではないだろうか、安全に提供することの定義は何かと考えるところがある。

・幼児教育アドバイザー派遣事業について、利用した園からのアンケート結果は事業の内容が充実しており、満足度が高いにも関わらず、利用が少ないのは残念である。利用してみると、園の悩みに寄り添ってもらえ、園の職員に対しても保育を褒めてもらうなど、職員の自己肯定感も高められ、とてもよかった。利用園数が増えるようにしていくには、利用した園が他園に紹介したり、行政が利用についての工夫をしたりするなども必要なのではないか。

2　意見交換・協議

・浜松市の幼児教育の指針「幼児期に育てたい力」参考資料サーチ『どれみる？』は、タイトルや構成についてはよいと思う。周知の仕方については、今後検討が必要だと思う。就学前施設や小学校へ周知していくのであれば、研修時に配布し、その場で見てもらうようにするなどの工夫が必要なのではないか。保護者への周知であれば、保健センターやこども館、園の申し込み時等、具体的な使い方が案内できるような配布の仕方の工夫が必要なのではないか。

・令和8年度研修計画「幼児教育と小学校教育の接続に関する研修会」について、今年度までは園よりも小学校教員の参加が少なかったため、令和8年度からは市内全小学校の参加を悉皆とした。悉皆とした経緯については、スタートカリキュラムの充実を図る目的がある。小学校はゼロからのスタートではなく、園からつながっていることを理解していく必要がある。こどもの情報を共有する場として、園の先生と小学校の先生が一緒に研修をすることに意義があると思っている。
→研修を実施するにあたり、どの学校がいつ参加するかが分かると、園は学校の日程に合わせて参加することが出来るので、早めに参加校を教えてほしい。

・「幼児教育推進協議会」の意義を確認しながら、今後の方向性として現段階では主だったところでは3つの取組となっているが、他の内容についての取組は検討をしなくてもよいか。
浜松市の幼児教育の指針「幼児期に育てたい力」教職員用指導資料の活用の割合が下がっていることに対して、今後どのようにしていくか具体的に検討をしなくてもよいか。

・幼児教育の中で近年、支援が必要なこどもが増えてきていると思われる。支援が必要なこどもはいずれ就学を迎えていく中で、幼児教育と小学校教育との情報共有などは必要だと思う。
→支援が必要なこどもに対しては文部科学省の委託事業(幼稚園等における特別支援体制構築事業)において、幼児期からの支援方法等を小学校に引き継いでいけるよう、令和7年度途中から3年間の取組として実施している。

・今後、小中学校においては、AIを活用した取組が入ってくる。今後は非認知能力が大切になってくると思われる。就学前施設には非認知能力を育てていく経験を継続してお願いしたい。
→幼児期において、非認知能力を育てていくことはとても大切なことと認識している。非認知能力については、浜松市の幼児教育の指針「幼児期に育てたい力」教職員用指導資料や「はますくノート」にも記載があるため、今後、参考としてもらえるよう周知していきたい。

【まとめ 島田先生より】

・令和8年度の研修計画の中で、「幼児教育と小学校教育の接続に関する研修会」を悉皆研修で開催するとのことなので、研修に参加して、その後の連携がどうなのか等、追跡調査をするとよいのではないかと考える。

・こどもの非認知能力を育てていくには、つまずきの部分もあると思う。こども自身の我慢や折り合いをつける力は親にも必要だと考える。大人や親として、こどもが危険な目に合ってはいけないと先回りをしてしまうことがあるが、危険等に対しての察知能力（本来、こども自身がもっているもの）を大人がそいでしまっていないかと思うこともある。

・幼保小の接続期の部分では、必要な人に必要な情報が届いていない現状もあるので、行政が専門的な立場の人と意見交換をして、環境等の構築をしてほしいと願う。園の先生方が小学校の先生方に言いにくい環境があるようなら、検討することが必要だと思う。

4　今後について	○　令和8年度の浜松市幼児教育推進協議会について 委員については、改めて各団体へ依頼する。